

国内研修報告

僕たち基礎演習 DQ クラスは、佐野竜平先生と一緒に 2/14(水)~2/17(土)までの間、同じゼミのクラスメイトの故郷である山形県小国町に国内研修という形で行ってきました。東京駅のバスターミナルから深夜バスで 2 回の休憩をはさみ約 6 時間で米沢駅へ行き、そこから電車で 1 時間半ほどかけ、ようやく小国駅という感じでした。電車は 1 時間に一本ほどで、僕たちの乗ったものはまさかの一両編成で、しかもボタンを押さないとドアが開かないというものとても貴重な体験でした。小国町役場は駅から 10 分ほど歩いたところがあり、建物の中はとてもキレイで、役場の職員の人たちも優しくとてもいい人たちばかりで、誰も嫌な顔 1 つせず挨拶や案内、紹介などをしてくれて、とても心地の良い見学となりました。その中でも特に町長がフレンドリーで、部屋に入ってくるとすぐに佐野先生と熱い話を始めたり、加藤さんを冗談まじりでいじったりと、とても楽しい方でした。一般企業から町長という珍しいパターンらしく、やはりこのような人が大きなことを成し遂げるんだろうな、としみじみ感じさせてくれました。2 日間僕たちの担当をしてくださった役員の方もとてもいい人で、役場の裏話などを聞けたり、僕が道の駅にメガネを忘れて来てしまったときも笑顔で車を運転してくれるような人でした。

まずは役場の職員の方から聞いた小国町の特徴を簡単に説明したいと思います。小国町は山形県の西南端、新潟県境、両県庁所在地まで約 80km の地点に位置し、役場付近の海拔は 137m、面積は 737.56 平方メートル。気候は日本海側式気候で、北に朝日連峰、南に飯豊連峰という雄大な山並みで、何と面積の約 94 パーセントが森林(山林)という驚異的なもので、さらにそのうちの約 70 パーセントが落葉広葉樹である。多い年では町中心部で 2m、周辺部では 4m 以上の積雪がある豪雪地帯である。僕はこの春休みにこの国内研修とは別件で、高齢者傾聴サークル「ごまちゃん」の合宿で 2/18(日)~2/25(日)までの間秋田県の藤里町というところに行っていたのですが、その秋田県の雪と比べても積雪がとても多く、また、雪質が小国町の方が柔らかいかなという印象を受けました。小国町の面積 737.56 平方メートルは、平成 29 年 4 月現在、県総面積の約 7.9 パーセントで県内 35 市町村の第 2 位に君臨しており、香川県の 1,876.72 平方メートルの約 39.3 パーセントを占め、さらには東京 23 区(約 626.7 平方メートル)が丸ごと入るほどで、また、世界 244 の国及び地域のうち小国町より国土面積の狭い国が 58 ヶ国もあるほど大きく、文字通り「小国」は「小なりとも一国」と言えるであろう。人口は、昭和 30 年の 18,366 人を最高に以後減少に転じ、それ以降一貫して減少傾向にあり、平成 29 年 3 月末住基人口は 7,887 人である。年齢階層別の人口はというと、0~14 歳の年少人口は 866 人で 11.0 パーセント、15~64 歳の生産年齢人口は 4,106 人で 52.2 パーセント、65 歳以上の老年人口は 2,896 人で 36.8 パーセント。山形県の老年人口は全国の 26.6 パーセントと比べるとかなり多めの 30.8 パーセントで全国 7 位であり、小国町はその山形県で 4 位の高齢化率であり、少子高齢社会を体現している。実際に町を歩いていても、若者と出会うのはかなり稀で、ほとんどが 50 歳以上と見受けられる人たち

ばかりであった。そこで僕が気になったのは、「果たして学校はちゃんとあるのだろうか、あるとしたら人数は？設備は？」ということだった。文教施設は、平成17年度末現在小学校9校(単独3校、併設5校、分校1校)、中学校6校(単独1校、併設5校)あったが、少子化が進展する中であって、適切な教育環境を維持していくため、小学校1校、中学校1校に統合することとなった。さらに、統合小学校の母体となる新しい「小国小学校」が、平成26年4月に開校するなどを経て、現在は小学校2校(単独1校、併設1校)、中学校2校(単独1校、併設1校)となっている。

実際に小国小学校を訪れてみて、自分の通っていた小学校との違いなどを中心として話していきたいと思います。まずはじめに驚いたのは、校舎が吹き抜けになっていることだった。校舎はほとんど木でできており、階段も横にとても広く、雪のせいで外であまり遊ぶことができないせいか、室内はかなり開放的な感じだった。また、校舎に使われている木は小国町の木を使っているそうだった。そして、今はどこの小学校でもそうなのかもしれないが、授業にスクリーンとアイパッドのようなタッチパネル式の機械が導入されていて、パソコンなども普通に使うようで、僕が小学校の時には考えられなかったので、羨ましい反面、ちゃんとプロテクターがついていて落としても安心というが、小学生でそのようなものが使えるのかどうか少し不安もあった。教室のドアがガラス張りでとても大きく、廊下から教室内全てを見渡すことができ、また、そのことを利用した授業の仕方もあるようだった。英語の授業に力を入れているらしく、かなり難しい単語などを発音していて驚かされた。体育の授業では、曲に合わせた振り付けを自分たちで作るというものを行っており、みんな裸足で体育館で踊っていて、寒くないのかな、と思ったが、聞いたところによると、床暖房がついていて、全く寒くないとのことだった。雪国なら当たり前かもしれないが、濡れたスキーウェアなどを乾燥させる、「乾燥室」などもあった。また、小国町は広く、電車もあまり通っていないためか、バスで通学する生徒が多いため、バスの待合室などもあり、勉強するスペースや、パズルや本などがおいてあり、友達とバスを待つのは楽しいだろうなと思っただけ羨ましかった。

ご近所同士の付き合いを増やすために設けられた憩いの場にもお邪魔したのですが、大学生が来るということでご近所のおばあちゃん達がたくさんご飯やお菓子を作ってくれて、地域の温かさを感じることができました。その施設ではオセロや将棋などのボードゲームに加え、輪投げや卓球などをすることができ、特に輪投げはかなり盛んなようで、定期的に大会が開かれるほどでした。初めは役場の職員のポケットマネーで色々な道具を集めたようですが、人数が集まってからは、みんなでルールを決め、みんなでお金を出し合っただけのものでもどんどん買い足していったようで、自分もそんな老後を送りたいなと思うことができました。

この他にも総合病院や道の駅に行き、さらには自治会館で地域の人と一緒にご飯作りの体験などを行いました。4日間でしたが夜行バスを除くと小国町にいたのはたった2日間だけだったのですが、とても濃密な2日間を過ごすことができました。勉強といった勉強はそ

こまでしていないのですが、この体験で福祉や地域づくりのモチベーションがかなり上がったので、2年生になってからもたくさん勉強して、たくさんさまざまな地域に足を運んでみたいです。そして、国内研修の提案をしてくれた加藤さん、承諾してくださった佐野先生や法政大学、また小国町の方々、本当にありがとうございました。